

特色ある取り組み **ココに発見!!**

全国に発信 高校のチカラ

埼玉県

シリーズ・18

筑波大学附属坂戸高等学校

筑波大学附属坂戸高等学校(埼玉県坂戸市)は、全国で初めて「総合学科」を取り入れた国立の高校だ。文部科学省「SGH 指定校」や「国際バカロレア認定校」など、生徒の多様性を象徴するさまざまな取り組みがなされている。8月28～30日の三日間にわたる「リーダーシップ研修プログラム」のレポートと共に、進路指導部主幹・藤原亮治教諭にお話をうかがった。

自己を知り、描いた未来を確実に実現

持続可能なアセアン社会を創る人材育成

グローバル化やIT化によって、複雑化する社会において、「21世紀型」スキルの修得は喫緊の課題だ。筑波大学附属坂戸高等学校では、総合学科という特色を活かし、横断的な学習でグローバル社会に挑戦するさまざまな先進的な学びの機会を設けている。時代のニーズに応えたカリキュラムに、アクティブ・ラーニングを通して学びの深まり、基礎知識と共に「思考力」や「実践力」を総合的に身につける。

「総合学科は科目数が多い分、個々の学習が孤立化しないカリキュラムマネジメントが重要になります。本校の生徒は、自分で時間割を組むため、得られる知識やスキルが異なります。これまでにそれぞれ



フィールドワークを通して、ドネシアの生徒と課題を解決



進路指導部主幹 藤原 亮治 教諭
国内外の大学や企業、国際機関等と連携しながら、質の高い教育課程等の開発・実践に動いている。

同校が掲げる研究開発構想は「先進的な総合学科を活かした持続可能なアセアン社会を創るグローバル人材の育成。多様な集団の中で自国の伝統や文化を大切に、意見交換に努め、自律的に活躍できる人材育成を目指している。国連の持続可能な開発目標「SDGs」を軸に、共創の対話力で新しいアイデアを創出する。生徒一人ひとりに対し、地球市民醸成プログラムを開発し、アセアン諸国と連携して、2年間及ぶ課題研究プログラムを開発している。2年生で3週間程度インドネシアでフィールドワーク、3年生では筑波大学におけるアカデミックインターンシップ研修を実施しており、加えて、コミュニケーション能力向上のための英語+1カ国語スタープログラム(インドネシア語講座)も実施している。

「リーダーシップ研修プログラム」

8月28～30日の三日間、筑波大学附属坂戸高等学校において、株式会社イノベスト(本社東京・渋谷区)と大学新聞社共催の「リーダーシップ研修プログラム」が実施された。本プログラムは思考力について多くのグループワークを通して学ぶ中で、リーダーシップを発揮させるを得ない環境を作り、研修中の問いかけや、プログラム最後の振り返りを通して、自己のリーダーシップを伸ばしていく設計。思考力については段階に分けた段階的なワークを通して学んだ。



同じ課題を扱うグループでも異なる視点で解決策を講じていた

一日目は「課題発見」をテーマに実施。「漢字当てクイズ」や身近な悩みを課題として取り上げたワークに取り組んだ。

一日目のラストは、グループでの問題や若者が抱える課題をテーマにディスカッション。各メンバーの課題に対して質問し合うことで深堀りし、考察した。最後に一日目として学んだことを、日常でどのように活かしていけるかをグループで話し合い、この日のプログラムは終了した。

二日目のテーマは「課題解決」。前日のワークで出した社会的課題について、「本当にやりたいことは何か」という本質を考え、解決策をグループごとに細分化し、分かりや

く整理した。例えば、スマホ依存や地方の過疎化問題など、各グループで出したテーマを解決策にグループ分けし、ラストは決めたテーマを出し合った解決策を発表。問題の構造を考察することで、見落としがちな問題に気づくことができるといって学んだ。そして、考えの確信を引き出し、物事を明確にすることで、真

の目的の発見につながるという意識を、最終日へと臨んだ。

最終日には、三日間の総括として、「アイデアの改善」をテーマに実施。リーダーシップについて改めて振り返り、前日に出した解決策について、誰が見ても分かりやすくなっているかなどを見直し、アイデアを改善して整理した。また、アイデアの掛け算に挑戦しながら三日間を通して養った思考力を総動員して、枠にとまらない斬新なアイデアを各グループで発表。アイデアを各グループで発表し、三日間にわたるリーダーシップ研修プログラムを締めくくった。

今回のプログラムを受けて藤原教諭は「それぞれが持つリーダーシップを生徒自身が自覚し、自己肯定感を持ってもらいたいという願いがあり、今回のプログラムを実施しました。日頃の授業で培ってきたスキルを改めて認識する機会でも、実施の意義があったと感じています」と、同プログラムの手応えを感じていた。

多様な文化を理解し、尊重する

一方、平成29年2月に「国際バカロレア認定校」に認定され、平成30年度入学生より、高校2・3年生を対象として、「IBディプロマプログラム(DP)」を導入している。

IBは、多様な文化の理解と尊重の精神を通して、より良い、より平和な世界を築くことに貢献する。探究心、知識、思いやりを富んだ若者の育成を目的としている。学校が、政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組んでいる。世界各地で学ぶ子どもたちが、人間の考え方は十人十色であり、それぞれを認められる人として、積極的に関わり合い、共感する心を持つて人材となるよう、動きをかけているプログラムだ。

IBは求める学習者像として「探究する人」「心を開く人」「知識のある人」「思いやりのある人」「考える人」「挑戦する人」「コミュニケーションが得意な人」を掲げている。

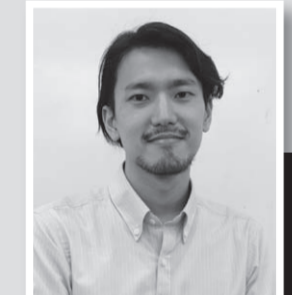
1年生で全員が「海外校外学習」に参加。現地では、ホームステイやホームスチューデント。現地の高校生との交流や課題学習を通して、地球市民性を養う。

2年生では、同校独自のプログラムとして「GAP」も機能している。

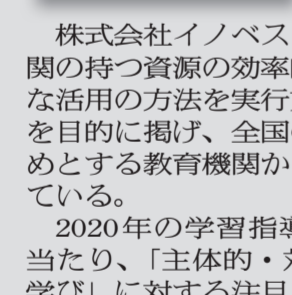
「1年生で全員が海外校外学習に参加。現地では、ホームステイやホームスチューデント。現地の高校生との交流や課題学習を通して、地球市民性を養う。」

「2年生からはIB・DPが、2年生からはIB・DP科目を中心に学習。同校では6科目中2科目は英語で学習しており、その他科目についてもほとんどの資料が英語で書かれている。母語運用能力に加え、学術的な英語運用能力を高めることも可能だ。同校の多様な取り組みは、生徒が幅広い視野を持って、進路選択することにもつながっている。「進路選択」についても、例えば「大学を目的にするのではなく、あくまで大学は『なりたい自分』になったためのツールだから、自分らしくいられるところを選ぶ。対話を通して引き出せるような心掛けをしています。」藤原教諭の「自分らしく」を重視した進路指導が、生徒の可能性をさらに引き伸ばしているのだろう。そのほか、生徒の多様な興味・関心に応えるべく、大学や企業等と連携し、模擬授業や出前授業を実施。多様な角度から社会を見ることが、進路選択の一つの材料にもなる。

目まぐるしい時代の変化にも柔軟に対応する筑波大学附属坂戸高校。「個」を尊重し合う人材こそが多様化する現代社会の最前線に活躍するのだろう。



誰もが持つ「リーダーシップ」を引き出す 株式会社イノベスト



株式会社イノベストは、教育機関の持つ資源の効率的かつ効果的な活用方法を支援することを目的に掲げ、全国の大学をはじめとする教育機関から依頼を受けている。

2020年の学習指導要領改訂に当たり、「主体的・対話的で深い学び」に対する注目度は非常に高い。時代のニーズに応えるように、同社では授業をアクティブにする方法として、①教育目標を明確にする②学生・生徒の支援を取り付ける③学生・生徒のアシスタントを活用すること④教育インフラの整備と強化をすること——を掲げ、各教育機関が抱える課題に対して具体例を基に、ソリューションを提供している。

部梨羅氏は「初日に取り上げた『質問』は、三日間を通して、いろいろな場面で効果を発揮したはず。意識しながら取り組んで欲しい。また、『構造』で考えるということも、問題の本質を見極めるのに重要。さらにその先の仕組みを考えることで、最善の解決策にたどり着けるはず」と、参加者にメッセージを送った。まだまだ高校現場でも、権限を持つ者のみが発揮すべきと思いがちなリーダーシップ。今回の講座は世界標準では誰もが強みとなるリーダーシップを持っていることに気づき契機となり、秘めた可能性を自然と引き出すような内容になった。

今回のプログラムを受けて藤原教諭は「それぞれが持つリーダーシップを生徒自身が自覚し、自己肯定感を持ってもらいたいという願いがあり、今回のプログラムを実施しました。日頃の授業で培ってきたスキルを改めて認識する機会でも、実施の意義があったと感じています」と、同プログラムの手応えを感じていた。

企業を相手に、本物のビジネスを体験し、リーダーシップを育てる

BLP(ビジネス・リーダーシップ・プログラム)とは?

BLPは、グローバル社会で活躍できる人材の養成を目的に作られた、経営学部経営学科のコア・カリキュラムです。チームでのプロジェクト実行やスキル強化を通して、ビジネス・リーダーシップを体験的かつ段階的に身につけていきます。

1年春学期の「リーダーシップ入門」をスタートして、3年生春学期のBL4まで5学期2年半にわたって行われます。

リーダーシップを学ぶために、プロジェクト実行とスキル強化を実施することが特徴です。

なぜリーダーシップなのか?

必ずしもリーダーシップ=カリスマ性ではありません。社会のあらゆる場面において、とりわけビジネスの現場で必要とされているのは、他人に気を配り、小さなチームをまとめて、全体で成果を上げるスキルを持った人材です。実はこうしたスキルこそが重要なリーダーシップなのです。BLPでは、社会が求めるこうした「権限がなくても発揮できるリーダーシップ」「ビジョンを示し周囲を巻き込むリーダーシップ」、すなわち「ビジネス・リーダーシップ」の養成を目指します。

<経営学部> 〒171-8501 東京都豊島区西池袋3-34-1 TEL 03-3985-2660 URL <http://www.rikkyo.ac.jp/>



立教大学

創造力あるビジネスリーダーを育成